



8月22日(金)、堺総合福祉会館にて「堺・介護1万人アピール」

堺・介護1万人アピール運動の成功めざす集い

介護事業所や他団体など、参加者は50名。講演の内容は、「要支援の方が介護保険サービスから外され、各自自治体でボランティアなどが運営するヘルパーやデイサービス事業に移行されるという内容」で、①専門職の配置されないサービスで質の低下の問題、②事

地域のなかで、何が起きているのかを知ることを通じて、「介護難民」をつくらない運動を広げたい。友

みみはらファミリークリニック

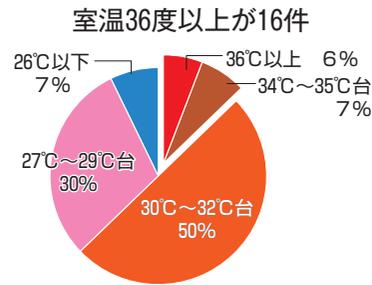
「介護難民」をつくらない運動を広げたい！

「介護難民」をつくらない運動を広げたい！
地域の中で、何が起きているのかを知ることを通じて、「介護難民」をつくらない運動を広げたい。友

安心して住み続けられる堺のまちをつくらう

室温30度以上が63%

同仁会調査



大阪民医連 熱中症調査報告

調査期間 2014年7月14日(月)~8月10日(日)
総サンプル数：249件



熱中症調査へ出発するスタッフ

今年の熱中症調査は、大阪民医連全体で約900件実施し、同仁会では昨年の164件を100件ちかく上回る、過去最高の249件となりました。同仁会の調査では、室温30度以上の方が157件63%、36度以上の方も16件と、熱中症の危険がある方が多数おられました。経済的に困難で、エアコンを設置していない、つけていない方も24件おられ、背景に貧困を感じずにはおられません。

「認知症の疾患が見られる方は、自分で衣服や室温の調整ができなかったり、熱中症や脱水症状が起きてくる事には気づかずにいる。生命の危険につながる場合もあるため、独居で認知症の方は注意が必要」や「玄関の力ギはあいていない。名前呼んでも返事なく温度33度、玄関の入り口は、物がいつばいで歩けない状態で緊急時、身動きがとれない状態だった」などの深刻な報告も寄せられています。

深刻な実態訴え 大阪府とこん談

調査であきらかになったリアルで深刻な実態をもとに、8月29日(金)には大阪民医連の介護職員や診療所の職員等20名が参加し、大阪府との懇談会を行いました。調査データをもち、生活保護費の引き上げや、低所得者の熱中症対策(訪問など)を府として自治

業運営を継続していく為に必要な報酬が低いとされる問題など課題が山積みです。
今後は各自自治体の取り組む姿勢により、サービス基盤整備が左右されてきます。今、堺市で65歳以上の人は約20万人(3人に1人が65歳以上)の高齢化社会になりま



大阪府との懇談

熱中症を予防するには、訪問し水分摂取を促すなど、積極的なアプローチが必要で、しかもために訪問するなど、マンパワーが必要と感じています。私たち民医連など、一部の医療機関だけの努力では限界があり、大阪府や市町村が、責任持った対応を講じる必要性を強く感じました。

西第3地域包括支援センター

地域のつながりを大切に



〒593-8322 堺市西区津久野町1丁5-8
アーバンフォレスト103号
TEL 072-260-5022
FAX 072-260-5033

こんにちは！ 同仁会 事業所だより



住民の方への認知症予防啓発

当センターは大阪民医連唯一の地域包括支援センターです。地域包括支援センターとは、堺市からの委託を受け、西区の第3圏域(上野芝・津久野・平岡・家原寺・向丘校区)を担当しています。この圏域内に住む高齢者の総合相談、権利擁護、介護予防アセスメント、高齢者を支える地域活動への支援など、多岐にわたる業務を担っています。
2012年4月の開設から早2年半。圏域内には法人内の事業所は1カ所も無
く、新しい土地での出発でしたが、少しずつ圏域の中での知名度を高めつつあります。「民医連らしい包括とは？」「高齢者の人権を守るには？」と日々悩みながら業務を進めています。開設4年目に入る来年4月には介護保険改悪が待ち受けています。「住民のためのセンター」として機能しきれるかどうかの正念場に立たされることになりそうです。
何があっても「愛あればこそ」。職員4人、「津久野のべっぴん4人姉妹(?)」として元気にがんばります。



小学校での認知症を考える授業